

## 10分で読める「レポートの正しい書き方」

塚 脇 真 二

学生のレポートといっても他人(教員)に読ませるものである。読者がきわめて限られてはいるが、そういう点ではレポートといえども論文あるいは報告書と同じといってよい。したがって、読者(教員)が理解しやすいように、そして読みやすいように書くのが何よりも大切なことだといえる。この点をまず念頭においてもらいたい。

「レポートは学术论文である」という視点にたてば、文系・理系・技術系を問わず学术论文や研究報告書の書き方がレポートにもそのまま適用されることになる。

1. まず表紙: レポートには別に表紙をつけるのが常識だ。表紙にはレポートの題目、学部・学科(課程)、学籍番号、そして氏名を明記する。関連する画像やイラストなどを入れるのもアクセントとして許されよう。なお、用紙にはちゃんとした市販のレポート用紙を用いる。課題によっては原稿用紙の使用も考えられよう。ルーズリーフや便箋などを代用するのは論外である。レポートはステープラー(商品名ホチキス)留めやのり付けして提出する。容易にはずれるクリップ類などは絶対に用いない。
2. 続いて目次: 短いレポートならば不要だろうが、かなりの枚数や章立てになるとときには各章とページ番号を対応させた目次をつけたほうがいだろう。なお、レポートが複数のページになるとときには必ずページ番号をつけるが、表紙と目次にはページを打たない。
3. はじめに: レポートを書く目的や意図、背景、データを集めた方法などをここに書く。データなどはいっさい書かない。レポートを書くにあたってお世話になった方がいたら、ここか「まとめ」かでお礼をさりと述べておく。
4. 資料の提示: この章には文献やインターネット、そのほかから集めてきたデータを客観的にかつ論理だてて記述する。個人的な考えや推定、意見などはここにはいっさい入れてはならない。
5. 考察: 前章で提示したデータにもとづいて、この章では自分の考えや資料からの情報を適時とりいれデータをまとめあげながら考察を展開し結論を導く。自分の考えを述べるにあたってはその根拠をひとつひとつ明示する。
6. まとめ: 考察で導かれた結論を簡潔にまとめて書く。学生のレポートならばここに感想を添え書きしてもいいだろう。
7. 引用文献: レポートの最後に引用文献をまとめて書いておく。並べ方は(1)本文中での引用順、(2)著者氏名のアルファベット(アイウエオ)順、(3)発行年順、などがあるが、どれかに統一されていればよい。本文中には、どの部分でどの文献を用いたのか、通し番



号や著者名、書名などを記入してわかるようにしておくこと。あたりまえだが信頼できない情報源(たとえばゴシップ週刊誌など)からは引用しない。インターネットからの引用のときには、アドレス([http://www.・・・](http://www.))とサイトのタイトル、そしてアクセス日時を書く。なお、インターネットには誤った情報があふれているのでサイトの選定には十二分に注意すること。よく利用されているWikipediaは出典が記載されていないことが多く著者も不明であることから信頼性がきわめて低いサイトといえる。データの信頼性や精度を見分ける能力がないときには、絶対安心とはいえないが”.go(.gov)”や”.ac(.edu)”のサイトを用いるのが無難だろう。日本語の「情報」にも、英語の「information」にも、いずれにも「正しい」という意味は入っていない。

以下、そのほかに留意すべきこととして:

手書きならば誤字・脱字は許されない。「講議(講義)」や「墳火(噴火)」などはよく見かける誤字の例である。ワープロを使うならば変換ミスにはくれぐれも気をつける。「安産岩(安山岩)」や「聖体(生態)」、「死霊(資料)」、「羞恥(周知)」などを見たことがある。笑いはとれるがほめられたものではない。

正しい日本語を使うのも常識だ。文法的に正しい日本語で書く。よく見かける例として、「では」と「には」との混同があげられよう。「うちではネコを飼っている」と「うちにはネコがいる」とを考えてもらえれば両者の違いが理解できるだろう。「AとB」という書き方も厳密には誤りだ。正しくは「AとB」という具合に「と」があとにも入る。正しい文法で書くことやミススペルがないことは英語などの外国語でレポートを書くときも同じである。また、冗長な文章は極力避けて簡潔な表現を心がけるようにする。

筆記用具に鉛筆などの消せるものは絶対に用いない。ボールペンや万年筆(死語かもしれない)を用いて読みやすく丁寧に書く。字の巧拙は気にしなくてよい。丁寧に書いてあるものはそれとわかるものだ。ワープロ&プリンターでの印刷もふつうに見かけるようになってきたが、この場合には読みやすい字体や文字の大きさ、行間などに十分に留意する。

レポート提出にあたっての諸規定、提出期限、提出方法、ページ数制限、フォントの大きさ、などはすべて厳守する。なお、ページ数制限とは一般的には最大限のページ数を定めるもの(たとえば、「表紙をのぞいて5ページ以下」)で、〇ページ以上というのは非常識な条件であるが、そのような指示がでているときには学生としては不愉快ながらも従うべきだろう。

課題レポートにあった「有効数字」とは、数値の最初にくる数値(0.528ならば「5」、0.00027ならば「2」、32.5ならば「3」、8,458ならば「8」)に、その次の位を四捨五入して得られる値である。したがって、0.528ならば $0.5(5 \times 10^{-1})$ 、0.00027ならば $0.0003(3 \times 10^{-4})$ 、32.5ならば $30(3 \times 10)$ 、8,458ならば $8,000(8 \times 10^3)$ となる。



レポートが終わったら・・・  
(ただし、成人のみ)